

【題名】 支えられ、支えていく税

【学校名・学年】 千歳市立向陽台中学校三年

【氏名】 阿 部 璃 桜

私には行きたい高校がある

小学生の時から、周囲の話を聞いてぼんやりと興味を持っていた。そして中学生になり進路を考え始めた時、その学校の特色、設備や雰囲気、大学への進路状況などを調べてますます魅力を感じ、今は第一希望の学校で、日々受験勉強を頑張っている。

しかしそこは私立高校だ。私立といえばものすごくお金のかかるイメージだし、実際、そう。家の事情を考え「無理だ」と一時はあきらめた。

そんな時、学校から一枚のパンフレットをもらった。「私学就学支援」。授業料の助成等の内容で、条件によっては実質無償化となるらしい。無償化？なぜ？どうしたらそうなるの？

最初知った時は単純に嬉しかった。母も私立高校出身者だが、当時はそんな制度はなくそれはそれはお金がかかったそうだ。

それが今は無償化になることもある。これまではただラッキーな時代に生まれたと思っていたが、今回この税の作文を書くにあたりわかったことがある。

国の就学支援や道の授業料軽減補助等は全て税金で賄われている、ということ。当たり前である。誰か個人や会社が負担してくれるわけではない。そして、国や都道府県のお金とは、みんなの税金なのである。

それをいまさら実感した。

考えてみたら私学だけではない。公立高校も、小学校も、今通っている中学校だって、税金のおかげで成り立っている。小学校に入学し、初めて教科書を受け取った時、紙袋にこう書いてあった。

「この教科書は国が無償で配布しているものです。国の繁栄と福祉に貢献してほしいという国民全体の願いを込めて、その負担によって実施されています。」

つまりこれも国民の税金である。

税金なんか、こどもには関係ないと思っていたけど、そういえば私も消費税という税金を払っている立派な納税者である。

税は「面倒くさい」「お金を取られてしまう」というものではない。私の払った税金が誰かのために使われていて、それを知った誰かが喜ぶかもしれない。誰かが夢をあきらめかけた時、その助けになるかもしれない。もしかしたら巡りめぐって自分自身の助けになったりするのかもしれない。

だから誇りを持ち、きちんと税を払う人間になろう。そんな事を今、中学生の時に気づけた私は立派な大人になると思う。きっと。